

1 部

学習サポート

11～12月の各種申込み締切一覧

各種の申込みや提出の締切で主として11～12月のものを一覧にいたしました。通信教育部では各自のペースで学習していただくことを基本としておりますが、各種の申込みは下記の日程必着でお願いいたします。

■全学生に関連するもの

	提出物	締切日
12月科目修了試験	レポート・申込みハガキ	11月24日(木)
冬期スクーリングⅠ (12/3～12/18)	申込みハガキ	11月17日(木)※
冬期スクーリングⅡ (12/23～1/27)	申込みハガキ	12月1日(木)
冬期スクーリングⅢ (1/7～1/22)	申込みハガキ	12月12日(月)
オンデマンド・スクーリング10	申込みメール	11月16日(水)正午
オンデマンド・スクーリング11	申込みメール	11月30日(水)正午
追加履修冬期分申込み	巻末申込書	11月21日(月)

	受付日
<p style="text-align: center;">レポート</p> <p>(レポートはいつ提出してもよいものですが、受付日の午前中到着分までについて、まとめて教員に依頼します。ひとつの提出目標として目安にしてみてください。)</p>	11月10日(木) 11月18日(金) 11月28日(月) 12月6日(火) 12月13日(火)※ 12月22日(木)

※『試験・スクーリング 情報ブック2011』より期日変更

■社会福祉援助技術演習・実習関連

	締 切 日	備 考
◆社会福祉援助技術演習Ⅰ・★演習A スクーリング受講申込み 1単位めレポート (スクーリング事前レポート)	1～2月受講希望者 →11月30日(水)	『レポート課題集 2011(1・2年次)』 「◆演習Ⅰ」 p. 125～131 「★演習A」 p. 190～194
◆社会福祉援助技術演習Ⅰ 2単位めレポート ★社会福祉援助技術演習A 2・3単位めレポート (スクーリング事後レポート)	7～8月受講者 →12月24日(土)	
◆社会福祉援助技術演習Ⅱ・★演習B スクーリング受講申込み 1単位めレポート (スクーリング事前レポート)	12月受講希望者 →11月30日(水)	『レポート課題集 2011(3・4年次)』 「◆演習Ⅱ」 p. 54～58 「★演習B」 p. 119～125
★社会福祉援助技術実習指導A スクーリング受講申込み	3月受講希望者 11月30日(水)	『レポート課題集 2011(3・4年次)』 p. 134～137
◆社会福祉援助技術現場実習指導(事前) 課題1-① (実習計画案)	12/17受講希望者 →11月25日(金)	『レポート課題集 2011(3・4年次)』 「◆実習指導」 p. 59～64 「★演習C」 p. 126～133
◆社会福祉援助技術現場実習指導(事後) 課題3-① (実習事後レポート)	1/7受講希望者 →12月22日(木)	
★社会福祉援助技術演習C (C-1+C-2) スクーリング受講申込み (実習免除者・科目等履修生 での実習希望者)	12月22日(木)	
★社会福祉援助技術演習C (C-1+C-2) 1・2単位めレポート (スクーリング事前レポート)	2月受講希望者 →12月22日(木)	

	締切日	備考
◆社会福祉援助技術現場実習 ★社会福祉援助技術実習 受講申込み	11月30日(水)	『レポート課題集 2011(3・4年次)』 「◆現場実習」 p. 65～67 「★実習」 p. 143～145

■精神保健福祉援助演習・実習関連

	締切日	備考
精神保健福祉援助実習 課題1-① (実習計画案)	12/18受講希望者 →12月5日(月)	『レポート課題集 2011(3・4年次)』 p. 83～97
精神保健福祉援助実習 課題3-② (実習事後レポート)	12/3・4受講希望者 →11月14日(月)	
精神保健福祉援助実習 受講申込み	11月30日(水)	

■教育実習・障害者(児)教育実習・介護実習関連

	締切日	備考
介護実習事前事後指導 スクーリング受講申込み	1/7～9受講希望者 →12月12日(月)	『レポート課題集 2011(3・4年次)』 p. 188～194
介護実習事前事後指導 1単位めレポート (スクーリング事前レポート)	1/7～9受講希望者 →12月22日(木)	

	締切日	備考
教育実習・障害者(児)教育実習誓約書・健康診断書・抗体検査のコピー（・個人調査票のコピー）提出	1月実習開始者 →11月15日(火) 2月実習開始者 →12月15日(木)	※事前指導受講済者のみ対象 ※抗体検査は数値だけのものではなく、医師による抗体を有する旨の文言が入ったものであること。
障害者教育実習の事前・事後指導 事前指導スクーリング受講免除届	3月受講免除希望者 →12月24日(土)	『レポート課題集 2011(3・4年次)』 p. 283～288

■その他

●心理学実験Ⅰ・Ⅱ

- ・単位認定レポート提出期限 12月24日(土)

●コミュニケーション英語（1月スクーリング受講希望者）

- ・1単位めレポート提出期限（冊子版使用者） 11月19日(土)
- ・1単位めレポート合格期限（オンライン版使用者） 12月1日(木)

●オンデマンド・スクーリング受講者

- ・オンデマンド8 試験レポート提出期限 11月16日(水)正午
- ・オンデマンド9 試験レポート提出期限 11月30日(水)正午
- ・オンデマンド10 試験レポート提出期限 12月24日(土)正午

●卒業研究

- ・提出締切（社会福祉学科・社会教育学科のみ） 12月19日(月)

心理学実験Ⅰスクーリングを終えて

教員 MESSAGE

准教授 佐藤 俊人

心理学実験Ⅰの仙台スクーリング、東京スクーリングが無事終わりました。連日の実験レポート作成、お疲れ様でした。特に東京スクーリングでは2日めに2つの実験をこなすというハードスケジュールでしたが、参加した皆さんはきちんと消化できましたでしょうか。そこが一番気がかりなところです。

仙台以外での実験Ⅰスクーリングは昨年札幌で試験的に実施し、今年は東京と、少しずつ継続の可能性が見えてきたように思えます。一日一つの実験を、4人の担当教員が毎日入れ替わりながら4日間実施する仙台スクーリングと比べ、2人の担当教員が2つの実験を担当することで、受講生の皆さんとのコミュニケーションがとりやすかったという印象を持っています。

さて、来年以降に実験Ⅰスクーリングを受講予定の方のため、あるいは実験Ⅰスクーリングにしりごみをしている方のため、そしてすでに受講した方には再確認のために、少し心理学における実験について話してみようかと思えます。

1 なぜ実験（刺激を与えて反応を集める）するのか ——

人間を「みただけ」その心の仕組みや性格、考え方を理解できるひとはいません。「あなたは根気強い」という場合には、これまでにその人がどんな行動をしてきたか、という情報があって初めて判断できるわけです。そこで、その人の心の「ここを調べてみたい」という欲求がでてきた場合には、その人に、目的に合った「刺激」を与えてその「反応」を集め

る必要があるわけです。

相手から情報をもらう、というこの作業は、何も心理学実験に限った話ではなく、私たちが日常的に行っていることです。教員であれば、「講義をする」という刺激を与えた結果、学生の「つまらなそうな表情」という反応があれば、そこではじめて「つまらないと感じているのだろう…何とか工夫しなければ…」と判断できますし、学生の皆さんであれば、「このようなレポートを書いて提出したら（刺激）、教員からこんなコメントが返ってきた（反応）。たぶんこの先生はこのようなことを大切に考えているんだろう…」などなど。

しかし、このような断片的な作業は、研究としては十分とは言えません。研究にするためには、「目的に合った」実験計画を立て、「実験条件をきちんと整えながら」反応（データ）を集めるということがとても重要なプロセスになってくるのです。

データの取り方としては、実験によるものもあれば、調査票（質問紙）でとるもの、面接や観察によって得るものなど、研究の目的に合わせた手法が必要になります。

2 独立変数と従属変数って？

たとえば、「スマートフォンへの興味関心」について知りたくなった、という研究を考えてみましょう。

学生の皆さんに「スマートフォン興味関心度テスト（仮想）」を実施したとします。その結果、一人ひとりの結果が点数として算出されることとなりますが、それだけでは研究にはなりません。一人ひとりの点数を把握はできますが、何を目的としたテストか不明です。これでは心理学を実学として考えているとはいえず、ただの心理遊び、あるいはあなたは何人中何番だったという順位づけになってしまいます。

そこで、たとえば「普段からパソコンに親しんでいると、スマートフォンへの興味関心度も高くなるのではないか、」という予想（仮説）を立ててみるわけです。もしもこの予想が当たれば、「パソコンに親しむことが、スマートフォンへの移行をスムーズにしている」という、少しは役に立つ情報を得られることになります。

この研究のためには、「スマートフォン興味関心度テスト」と同時に「パソコンにどれくらい親しんできたか」を把握しておかなければなりません。「パソコンに親しんできた人」という条件と「親しんでこなかった人」という条件で、スマートフォンへの興味関心に違いがあるかどうかを検討することになります。

このとき、「○○○○○の条件の違いによって、△△△△△の得点が違うだろう」という予想を立てる（この例の場合は、「パソコンに親しんできたかどうか」の条件の違いによって「スマートフォン興味関心テストの得点」が違うだろう）わけですが、

心理学では

○○○○○を「独立変数」 △△△△△を「従属変数」と呼びます。

心理学実験のスクーリングでは、独立変数は何か？従属変数は何か？を整理しながら実験し、レポート作成に当たることになります。

独立変数の説明としてわかりやすいのは、性別とか年齢、ミュラー・リヤー錯視図版における角度のようなものが挙げられますが、工夫次第でさまざまな実験条件や研究対象者の特性を独立変数として扱うことが可能です。

3 同じような試行を何回も繰り返すことも…

実験では、「ひとつの条件で1回やれば済みそうなこと」を何回も実施することがあります。これはデータの信憑性を高めるための手法です。た

たとえば、人間は新しいことばを覚えようとするとき「書く」と「音読する」のと、どちらの方が記憶に残りやすいかを調べたいとします。

この場合「覚え方（書くか、音読するか）が独立変数」で、「記憶再生数が従属変数」になります。

もしも、これを一人の被験者を対象として1回ずつ実施したのでは、そこで出てきた結果がたまたま得られた結果なのか、ある程度普遍的に当てはまる結果なのかが不安です。

「書く」条件の時には何か考え事をしていた

「読む」条件の時には集中していた

という可能性があるとするれば、得られた結果（記憶再生数）が「書く 読む」という条件から違いがでてきたのか、単に「集中していたかどうか」で違いがでてきたのかわからなくなってしまいます。

研究結果として報告するためにはある程度安定した結果が必要であり、そのためには一人の被験者に対して同じような試行を何回も実施したり、たくさんの人に対して試行するなど、データの数を多くすることによって研究計画上は扱わない、たとえば集中度のような「想定外の要因の影響」をできるだけ減らす工夫が求められるわけです。

4 統計的な検定は強い味方

ここからは研究法のスクリーニングでふれることになる「統計的検定」の話になります。

「パソコンに親しんできた人たち100人のスマートフォン興味関心度テストの平均が68.3点」

「パソコンに親しんでこなかった人たち100人のスマートフォン興味関心度テストの平均が67.5点」

さて、この結果から、「パソコンに親しんできた人の方がスマートフォ

ンへの興味関心が高い」と結論づけられるでしょうか？平均値の違いが「あるような、ないような」という微妙なところですね。もしかすると、パソコンに親しんできた人のうち、たまたま2～3人がスマートフォンへの興味が強く、その少数の人たちのデータが全体の平均値を高くしただけかもしれません。つまり、平均値の差がどれくらいあるのかと同時に、平均値の元になっている一人ひとりのデータに、どれくらいバラつきが大きいか（標準偏差）も同時に考えなければならないということになります。

つまり、差が「あると言える」のか「あるとは言えない」のか、誰かはっきり決めてくれ～と言いたくなったとき、それを客観的な基準で判定してくれるのが統計的検定です。この例の場合は「2つのグループの平均値に、意味のある（有意な）差があると言えるかどうかを検定するt検定」を使うことになりますが、その他にも相関分析、 χ^2 乗検定、因子分析など、実験計画に合わせた各種検定が助けてくれます。現在はほとんどSPSSという統計専用ソフトを使って数値算出から検定までをこなすことになります。

このように、統計自体が研究・学習の目的というのではなく、研究をサポートしてくれる便利な手法です。SPSSの操作も「難しいに違いない」と構えてしまう方もいると思いますが、何のために、どのような検定をするのか、という簡単な考えさえ理解すれば、決して難しくはありませんから…。

5 最後 に

心理学を学ぼうとしている方の目的はさまざまです。

現在の職業に活かしたい方、カウンセリングの基本を学びたい方、親子関係について知りたい方など、日常的なニーズによるものも多いのではないかと思います。そのような方にとって、もしかすると必修科目として

「心理学実験は不要だ」と感じる方がいても不思議ではありません。

しかし、「どのような条件が変わると、結果がどのように変わってくるのかを確かめてみる」という心理学実験の基本は、日常生活のあらゆる場面で応用できる考え方だと思います。

幸いにもスクーリング後の受講生の方の感想には「楽しかった(大変だったけど、という付記がつく方ももちろんいますが…)」という方が多いようです。決してつらい実験ではなく、なによりも同じスクーリング受講者の方々とワイワイやりながら実験しますので、学生の方同士のコミュニケーションも盛んです。ゆううつな気分で臨むのではなく、ぜひ参加を「楽しみに」して、あまり学年が進まないうちに受講して頂ければと思います。

感性の問題

教員 MESSAGE

兼任講師 横山 英史

「震災の前の日に戻って、おいしいものをたくさん食べて死にたいです」
震災後、テレビで流れていた『被災者の声』の中で、一人の子どもが発した言葉です。十分な食料もない、寒さの中で、少なくない人々が、どこかで感じながら語らない・語れない心を、その子どもは、ぼつりと口にしたのではないだろうか、と思いました。

喪失に向き合う

人生には、様々な喪失を味わうことを余儀なくされるのが度々あります。何が大きな喪失となるかは、その人の経験にもよりますが、特に、家族や親しい人の死は、遺された者に、身体的精神的な生命線寸断の危機をもたらします。日常生活に対処していくこと、即ち「生きていくこと」の基盤の部分に、大きなダメージを受けるのです。

では、そのように大きな喪失を体験した当事者に、第三者はどのような距離感をもって接すればよいのでしょうか。養老孟司氏は「死者とは、もともと赤の他人についていうこと」と述べています¹⁾。死んだ者を死んだ者として悼むことができるのは第三者であって、当事者は、家族や親しい人が死んだことをそう簡単には受け容れられません。喪失当事者に向き合うとき、私たちは、このことを忘れてはいけけないのではないのでしょうか。

もちろん、人間には共感という能力が備わっていますが、そこには当然、限界があります。その限界を無視して「わからないもの」を「わかる」と言うことは、かえって当事者を傷つけることになりかねません。喪失に向き合う暇もなく襲ってくる生活の重苦と孤独に耐えていかなければなら

ないのは、他でもない、当事者自身なのです。

他方、「わからない」ものを安易に「わかる」と錯覚することは、第三者の感性にも、あまりよくない影響を及ぼしそうです。最近の認知科学では、人間は、情緒という生理的興奮を感じこそすれど、その種類や理由については実に曖昧な「後付け」をしており、そのラベリングの仕方が、後のその人の行動や判断に影響するということがわかっています^{2) 3)}。「他人のことを自分のことのように」感じることは、人間らしい優しさと評価されやすいため、当人は自尊心を高めるでしょうし、その結果、人間そのものが美化され、時に人の気持ちを踏みにじることもあるという「望ましくない」人間らしさが、都合の悪いものとして隠蔽されてしまう可能性もあるでしょう。

私たちは、今回の震災のように、一度に多くの命が失われた事態を目にすれば、被災者に心から同情し、自分の価値観までも変わってしまったように感じるかもしれません。しかし、死と喪失は、人間にとってはむしろ「日常」といえます。事件や事故、災害、疾病や自殺などで亡くなる人、遺される人は、絶え間なく生み出されています。いつ、自分の人生の岸辺を津波が襲うのか、誰も知ることはできません。

私たちは、誰かが悲しんだり苦しんだりしているときに、笑ったり喜んだりしています。誰かが傷ついたり、亡くなったりしているときに、娯楽や享楽にうつつを抜かしていることもあります。しかしそれは、誰にも咎められることではないでしょう。人間にとっては、自ら経験していることがすべてだからです。ですから私は、人が生きるとは、ある意味、不謹慎を承知の上でのことなのだと思っているのです。

感性を守れるか

個々人が人間の性質や性能を誤って認識することは、人間の集団である

社会にも影響を及ぼすことになるでしょう。それは、言論の統制という形で表れるかもしれませんが。誰も本当のことが言えない「空気」が醸成されることによって、社会や生命が大きな危機にさらされることもあり得ます。実際、表現への厳しさが、震災後、より増したのではないかと指摘する声も出始めています。禁止の包囲網が狭まると同時に、人として「正しい」ことや「望ましい」ことが押しつけられ、些細な行動や発言が些細な理由で叩かれる事態も見受けられます。人と人とのコミュニケーションが、どんどん硬く、息苦しく、空虚なものになってきているように感じます。世の中は言葉であふれかえっていますが、その中で、本心や本音、互いの心に触れ合うようなつぶやきは、どれだけ含まれているのでしょうか。

表現の制約は、人間の心を縛ります。縛られて窮屈になった心は、その辛さから目をそむけるために、押しつけられた正しい答えを、もともと自分の考えであるかのように思い込もうとするかもしれません。ですが、自分の心に向き合うとき、そこには正しい答えなどありませんし、かくあるべきという理想も、ほとんど意味をなさないことでしょう。

レポートに向かうときには、どうか、ご自身の気持ちを、自由に解き放ってみてください。そして、ご自分の心に、「本当にそう感じているのか」と、繰り返し何度も問うてみてください。「書く」ということが、そのような機会の一つとなれば幸いです。

- 1) 養老孟司 死者とは何か 朝日新聞 2000. 3. 10
- 2) 下條信輔 サプリミナル・マインダー—潜在的人間観のゆくえ 中公新書 中央公論社 1996
- 3) 下條信輔 サプリミナル・インパクト—情動と潜在認知の現代 ちくま新書 筑摩書房 2008